

8703 ワンベッドルームの小さなアパートメントの・・・

ワンベッドルームの小さなアパートメントのリビングルームに、二つの机とタイプライターをおき、アルバイトの女性を一人雇って始めたのが、『ジャパン・ニューヨーク』という雑誌の出版業でした。

私がこの仕事を始める時、ある友人がこんな忠告をしてくれました。「読者は雑誌を見るのだ。オフィスを見るのではない。雑誌以外のことに経費をかける必要はない。」

そのアドバイスを守ったことが、この雑誌を今日まで続けられた一つの要因になったといえます。

中尾 道『女ひとりで暮らすニューヨーク』

[許容訳例]

Installing two desks and one typewriter in the living-room of a small, one-bedroom apartment, I began publishing a magazine, “Japan New York”, with the help of a part-time woman secretary.

When I first started the business, one of my friends gave me this piece of advice: “Readers see the magazine, not the office. You don’t need to spend money on anything except producing the magazine.”

One could say that this is one of the factors that have enabled me to continue issuing the magazine up to the present.

[翻訳例]

Furnishing the living-room of a small, one-bedroom apartment with two desks and a typewriter, and hiring a woman as part-time secretary, I launched a company to publish a magazine called “Japan New York.”

When I first started the business, a friend of mine gave me the following piece of advice: “The reader sees the magazine; he doesn’t see the office. There’s no need to spend money on anything apart from the magazine.”

The fact that I followed this advice can be seen as one of the factors enabling me to continue publishing the magazine up to the present day.

■ワンベッドルームの小さなアパートメントのリビングルームに、二つの机とタイプライターをおき、アルバイトの女性を一人雇って始めたのが、『ジャパン・ニューヨーク』という雑誌の出版業でした。(8703)

★「ワンベッドルームの小さなアパートメント」は「ワンルーム」のアパートメントではなく、ベッドルームが一つしかないアパートメントということです。a small, one-bedroom apartment です。なお、まだ読者と了解が成立していないのですから my small…としないで

不定冠詞です.

★「リビングルームに」は in the living-room of ~です.

★「二つの机とタイプライター」は、日本語には名詞に複数語尾がないので「二つの」は机だけにかかるのか、タイプライターにもかかるのか判断できません. 外国ではタイプライターは万年筆と同じで、一人一台が普通ですが、家庭では一家に一台でしょう. 「出版業」といっているのですから一人一台とも思えるし、「リビングルームで始めた」という貧しさから「机は二つ、タイプライターは一台」というイメージが出て来てしまいます. ここはどちらの解釈でもよしとせざるを得ないので two desks and typewriters でもいいし、two desks and one [a] typewriter でもいいと思います. なお、one と a ですが、前の two と対比して one を使った方が面白いかもしれません.

★「～をおき」は日本語では「A（場所）に B（物）をおき（動詞）・・・」ですが、これをそのまま英語にすると‘動詞 + B（物） + A（場所）’になって、日本語と情報の順序が逆になります. 日本語の情報順など気にしないなら Putting～とか、Installing～ですが、日本語の順序を変えないで、出てくるイメージを素直にそのまま並べていこうとすると工夫が必要になります. A と B の順序を日本語と同じにする方法は A（場所）が目的になるような動詞を選べばよいことになります. つまり、「A（場所）を B（物）で設備して・・・」として Furnishing～とか、In～furnished です.

★「アルバイトの女性を一人」ですが、「アルバイト」は英語ではありません. したがって、それに相当する英語に変えなければなりません. 英語では「パートタイムの女性」とすればいいでしょう. ただ、「一人のパートタイムの女性」は、ここでは a part-time woman worker ではなく、a part-time woman [female] secretary か a woman as part-time secretary などでしょう. worker と言うと肉体労働のイメージが優先します.

★「（～を）雇って」は hiring(～)とか taking on(～)とします. employ は日本語の「雇う」より「～を雇っている」に近いので、ここでは避けたいと思います. あるいは with the help of～を使ってもいいでしょう.

★「始めた」は「私は～を始めた」で I began publishing a magazine でもいいですが「出版業」の「業」を生かすなら I launched a company [business] to publish～とするといいでしょう.

★「『ジャパン・ニューヨーク』」は“Japan New York”です.

★「～という雑誌」は a magazine called～とか a magazine that's said～ですが、called とか that's said を使わないならコンマ(,)を使って a magazine, “Japan New York”としてもいいですが、このコンマは必須です.

● [関係性指標・修辭的工夫] の選択

「おき」「雇って」「始めた」という三つの {単位情報} の関係は「動作順次」ですから、それを表す英語の [関係性指標] は and です. しかし、and を順々に使うと、元の日本語には含まれない動作の順番が強調されてしまいます. 元の日本語は {単位情報} を [修辭的

工夫]の「連用形」と[関係性指標]の[て]で連結しています。「動作の順序」より「動作の同時性」が意識されているように受け取ることができます。つまり、「～をおき、～を雇った私が始めたのが・・・でした」と「連体修飾節」を使っても書き換えることができるほど緊密に感じられます。そのような「同時」を表す英語の[修辭的工夫]は分詞構文です。Furnishing... and hiring..., I...という形でつなぐと、ほぼ日本語のイメージに添った英文を作ることができます。なお、他には I furnished ~ and hired ~, with which...も可能ですが、無理にそこまでする必要はないと思われます。

■私がこの仕事を始める時、ある友人がこんな忠告をしてくれました。(8703)

★「この仕事を始めるとき」の「この仕事」は、上で述べた仕事ですから、筆者と読者の間にはすでに相互の了解が来ています。したがって「この」は指示代名詞(this)を用いるには及ばないことになります。When I first started the business となります。原文にはありませんが、first を加えたのは、非常に微妙なのですが、たとえば、When I started the business, I found that it was more difficult than I had thought. (仕事を始めてみると、・・・) というように、when だけでは意味が広がります。ところが、ここでは「仕事を始めた(その時)」と限定されているので、その意味で first を入れたくなるのです。

★「ある友人」は「友人の一人」と考えればいいでしょう。one of my friends とか a friend of mine です。

★「こんな忠告をしてくれた」の「こんな」は「つぎのような」という意味です。gave me this piece of advice とか gave me the following (piece of) adviceあるいは advised me as follows などです。

■「読者は雑誌を見るのだ。オフィスを見るのではない。(8703)

★「読者」は「読者は雑誌を見るのだ」を一般論として述べたものか、それともここで話題になっている特定の雑誌のことを述べているのか判別できません。ここは定冠詞(The reader) (了解単数)でも無冠詞複数(Readers) (総称複数)でもいいでしょう。ただ、こういう場合、「相互了解の特定の雑誌(あなたの雑誌)の読者」と解するのが普通でしょう。

★「雑誌」は the magazine とすれば「あなたが作っている雑誌」という意味になります。

★「見る」は see でも look at でも構いません。

★「オフィス」も the office とします。

■雑誌以外のことに経費をかける必要はない。(8703)

★「雑誌以外のことに経費をかける」は spend money on anything apart from the magazine でしょう。ここで except を使いたいなら「雑誌を作ること以外に」として spend money on anything except producing the magazine です。

★「必要はない」は You don't need to...か、There's no need to...です。なお、You need not...は「・・・しなくてもよい」のニュアンスが強くなると思います。つまり、don't need の need は動詞であり、need not の need は助動詞です。前者は客観的に「必要ない」と言っているのに対して、後者は主観的に「しなくてもよい」と言っているのです。

■そのアドバイスを守ったことが、この雑誌を今日まで続けられた一つの要因になったといえます。(8703)

★「そのアドバイス」はすぐ上で言われたことですから、英語的には「このアドバイス」と解した方がいいでしょう。

★「アドバイスを守る」は follow とか keep; observe ですが、英語として一番自然なのは follow です。

●同格の「連体修飾節＋不定代名詞的体言」(そのアドバイスを守ったこと)

「そのアドバイスを守ったこと」は「そのアドバイスを守ったということ」ですから「同格」の「連体修飾節(そのアドバイスを守った)＋体言(ということ)」で、英語では「名詞(the fact)＋同格節(that I followed this advice)」で対応します。

★「今日まで」は to [up to] the present とか until the present day など。up to today は間違いではありませんが、普通ではありません。

★「続ける」は「雑誌の出版を続ける」として continue publishing [issuing]…です。

●「連体修飾節＋体言」(この雑誌を続けられた一つの要因)

「この雑誌を続けられた一つの要因」は、英語的には「私に雑誌を出し続けるのを可能ならしめた要因の一つ」ということですから、「連体修飾節(私に雑誌を出し続けるのを可能ならしめた)＋体言(要因の一つ)」です。英語では「名詞(one of the factors)＋関係詞節(that enables me to continue publishing [issuing] the magazine)」となります。なお、that enables (関係代名詞＋現在時制)は enabling と現在分詞に変えることも出来ます。

★「・・・といえます」の場合、一人称(I can say…)は自己主張が強すぎるので使わない方がいいです。普通、これを訳す場合、たとえば、One could say とか It is safe to say that…とかのように impersonal な表現を使います。あるいは「このアドバイスを守ったことが、・・・の要因になったと言える[と見ることも出来る]」と考えて The fact that I followed this advice can be seen as a cause [factor]…という形も使うことが出来ます。なお、can be seen as の代わりに was undeniably を使ってもいいでしょう。この言葉は直訳すると「疑う余地もなく」となりますが、もっと軽い意味でよく使われます。あるいは was undoubtedly でもいいでしょう。